

先進地調査等報告書

令和7年11月20日

天童市議会議長様

会派名 てんどう創生の会

代表者氏名 遠藤喜昭

下記により、会派において調査（視察）が終了したので報告します。

記

期 間	令和7年10月30日（木）から 令和7年10月31日（金）まで
調査（視察）先 調査項目	①移住・交流情報ガーデン（東京都）（10月30日） ②日本将棋連盟（東京都）（10月31日） ※10月30日（木）は、東京都にて「人口減少社会における出産と子ども・子育て支援政策の問題点と課題」を研修として受講した。
調査（視察）目的	①首都圏における移住・定住に関する情報発信の状況について、その実態や実情を視察するもの。 ②令和6年9月に移転・リニューアルした日本将棋連盟の将棋会館について、その最新鋭の施設・設備や利用状況、運営などについて視察を行うもの。
市政との 関連性	①人口減少対策として移住・定住者の確保は重要な課題であることから、本市の施策の参考とするもの。 ②将棋会館の移転・リニューアルは、日本将棋連盟創立100周年事業として非常に大きな事業であり、天童市においてもクラウドファンディングにより1000万円の寄附金を集めて貢献をしたところである。プロ棋士の育成を悲願とする本市においても将棋を愛好する青少年や市民の聖地ともいえるべき施設の内容を見学し、知見を得ることは、将棋のまちづくりを今後一層推進する本市の施策等について参考となるものが大きいといえる。

調査（視察）内容	<p>①希望者をどのように受け入れ紹介しているのか。また、希望者の意向がどのような状況なのか。全国自治体の活動などがどのように実践されているのかを伺った。</p> <p>②千駄ヶ谷駅前に完成した日本将棋会館に入館して、すぐにフロアの壁に建設協力者の名前が掲示された中に本市の名があった。森下九段常務理事から施設の説明と館内の案内をしていただいた。</p>	
市政の課題への参考等	<p>①移住希望者は、関東かその周辺の希望が多いようだ。本市のパンフレットが1部しかなく、すぐに補充できるようにすべき。窓口で業務スタッフも含めアピールしていく必要がある。</p> <p>②長年にわたり同連盟と本市とのつながりの大きさを痛感。将棋駒の生産だけでなく、日本の文化の一つとして将棋の普及やプロ棋士の育成に努めている本市の取り組みをよく理解していただいております、これからもこの関係を大切にしていきたいと感じた。また、森下常務理事との会談の中で、本市でのタイトル戦が実現できればとお話をさせていただきました。</p>	
参加者の感想等	参加議員氏名	感想等
	遠藤 喜昭	別紙のとおり
	林 正人	別紙のとおり
	半田 大介	別紙のとおり
	斉藤 美千代	別紙のとおり

※参加議員全員が各調査（視察）先ごとに感想等を記載すること。

てんどう創生の会 視察・研修参加報告書

遠藤 喜昭

研修及び視察に関する感想について、次のとおり報告いたします。

令和7年10月30日

「人口減少社会における出産と子ども・子育て支援政策の問題点と課題」

甲南大学経済学部 足立泰美氏

1 参考になった点

①出生数と合計特殊出生数について

第一次ベビーブーム（1947～49年）	出生数約 2700 千人	出生率 4.32 人
第二次ベビーブーム（1971～74年）	2092 千人	2.14 人
現在（2024年）	686 千人	1.15 人

②平均初婚年齢と子どもを持つ年齢

1990年平均初婚年齢（夫 28.4 歳、妻 25.9 歳）
第一子誕生（夫 29.9 歳。妻 27.0 歳）
2023年平均初婚年齢（夫 31.1 歳、妻 29.7 歳）
第一子誕生（夫 33.0 歳。妻 31.0 歳）

※これまで子育て支援策に視点を向けてきたが、結婚した時の年齢が高くなると、夫婦の持つ子ども数も減少しており、結婚年齢と子どもを持つ年齢を引き下げるための具体的な施策も必要。

③夫の家事・育児時間について

- ・夫の平日の家事・育児時間別に見た妻の出産前後の継続就業率
 - 家事・育児時間なし 51.45%
 - 4時間以上 80.8%
- ・夫の家事・育児時間別に見た第2子以降の出生割合
 - 家事・育児時間なし 36.4%
 - 6時間以上 88.8%

※夫が家事・育児をすると、圧倒的に妻の負担を取り除き、第2子以降の出生が見込まれる。男性の育児休暇の取りやすい環境整備は必須。

2 感想

今回の研修は、内閣府や厚労省をはじめとした様々なデータに基づく内容で分かりやすかった。だが、これからの人口減少社会を見据え、子供・子育て家庭庁では結婚支援、妊娠・出産への支援、仕事と子育て支援、経済的支援と幅広く進めようとしているが、すぐに成果が見られそうになく、気が遠くなるような時間が必要であることは理解できた。

若者の県外流出を少しでも食い止めるための対策は全国の市町村で取り組んでいるが、大きな期待はできない状況であり、やはり結婚を少しでも早めていくため、大人になる前から人生のなかで、出会い、結婚、子供を授かり育てていくことがどれだけ素晴らしく豊かであるということを感じ取って欲しい。そのためにどうしたら良いのか、国が少子化対策として大きな視点で方向性を示していくことも重要ではと感じた。

令和7年10月30日

「移住・交流情報ガーデン」視察

東京における移住相談の窓口の一つである八重洲にある「移住・交流情報ガーデン」を視察しました。

- ・全国各地のパンフレットが並んでいた。本市のパンフが1部しか無くなっていた。
- ・相談窓口スタッフ6名の大半が60歳以上のベテランのように見受けられた。夕方6時頃で相談者はいなかったが、日中は多く訪れるとのこと。また、比較的東京に近い関東エリアや静岡県などを選ばれる方が多いとのこと。

令和7年10月31日

「日本将棋連盟将棋会館」視察

2024年10月、日本将棋連盟の創立100周年事業として移転・リニューアルした将棋会館がオープンした。その際、将棋駒生産日本一を謳い、これまでまちづくりの核として天童さくらまつりに開催する「人間将棋」や天童青年会議所が主催する「全国中学生選抜将棋選手権」などの事業に対し、長年に

わたり本市にお力添えをいただいていたなかで、本市においてクラウドファンディングで1000万円の寄附金を集めた経緯がある。天童市として将棋の普及はもちろん、地元からのプロ棋士を輩出するための育成や小学生将棋大会も本市で開催されるようになり、日本将棋連盟との絆を更に深めていくことが本市にとっても重要なことと考える。

感想

森下九段常務理事に案内していただき恐縮した。

- ・4階建てビルの1階部分を日本将棋連盟が使用し、2階から4階部分はテナントとのこと。
- ・セキュリティがしっかりしており、安全性が高い感じを受けた。
- ・対局室は実際にプロの対局が行われており見学できなかったが、対局室の畳1畳が20万円するというのを伺い驚いた。プロ棋士、マスコミ関係者がそれぞれ対局を映像で見られるよう部屋が用意されていた。
- ・100人ほどが対局できる将棋道場にカフェとショップが併設されている。週末は子供から年配者まで多くの将棋ファンが来場するとのこと。
- ・ショップとカフェが道路に面している。活躍しているプロ棋士をもっと演出しても良いのではと感じるほどボリュームが不足していると感じた。
- ・森下九段常務理事との会談の中で、新関市長とも数度お会いされていることもあり、本市の取組みについてよく理解されていた。柔らかな雰囲気を受け入れていただいたことに感謝したい。

てんどう創生の会 研修会等 参加報告書

天童市議会議長 様

天童市議会議員 林 正人

視察及び研修に参加したので、その感想を次のとおり報告します。

10/30(木)

初日は、「人口減少社会における出産と子ども・子育て支援政策の問題点と課題」と題して、甲南大学教授であり内閣府税制調査会委員でもある足立氏から講義を受講しました。全てにおいて公的資料に基づいた説明がありました。1949年の第一次ベビーブーム、1973年の第二次ベビーブームを境に日本の人口減少が進み、2024年には出生率が1.15になったことや今後も減少が続くことから、国の支援体制も大きく変化していった経緯など興味深い内容でした。地方においては一層人口減少が顕著になることから、本市においても魅力ある支援（出産や子育て支援）の更なる強化が必要であると思いました。

研修受講後は、移住・交流情報ガーデンに伺い交流イベントや各地への移住相談などを視察しました。その際、天童市の紹介パンフレットがほとんど見当たらなかったのも、同施設との連携強化が必要であると思いました。

10/31(金)

新築移転後の将棋会館を尋ね、施設を視察させていただきました。素晴らしい会館でした。館内のご案内や説明を連盟常務理事の森下様（棋士九段）や職員の方からいただきました。会館の歴史から本市との関わりなど参考になる説明を伺うことができ感銘を受けました。職員の皆様には心から感謝申し上げます。

また、帰路の際に、東京都新橋駅前での「全国交流物産展」に立ち寄りしましたが、天童市出店は前日だったことが分かり、残念でした。

両日の視察や研修を通じ、見聞を更に広め、市政に反映させてまいります。

先進地調査等報告書

会派名 てんどう創生の会
半田大介

- 1 期間 令和7年10月30日(木)から10月31日(金)まで
- 2 場所 東京都
- 3 報告 下記(1)~(3)に記載

(1) 人口減少社会における出産と子ども・子育て支援政策の問題点と課題 (セミナー受講)

人口減少や少子化を語る際に、経験則や思い込みではなく「正しいデータ」を起点に考える姿勢が重要だと感じた。合計特殊出生率の平均値だけでなく、初婚年齢・第一子の出産年齢・第二子以降の出生確率、転出入の年齢帯、再生産年齢人口の推移など、層を分けて連動で観ることで、課題がどこで起きているかを具体的に捉えられることを学んだ。

また、家事・育児の負担は意識ではなく実測時間で可視化することで夫婦間の認識が高まると感じた。家庭内の役割分担や「病児保育・申請手続き」など日常の摩擦が、第二子以降を産む意思決定に直結するという指摘は、重要な視点だと感じた。

少子化対策は国の政策に頼り切るのではなく、市町村単位で使い勝手の良い実装を積み上げるという講師からの提言は新たなアイデアを考えるうえで非常に参考となった。

- 思い込みの罫: 単発の成功事例や経験則ではなく、経年の統計・分布・層別(年齢×学歴×就業形態×世帯構成)で見る重要性。
- 指標の粒度: 合計特殊出生率の平均だけでなく、初婚年齢の分布、出産年齢など複数の指標で同時に追うことが重要。
- 家事・育児の可視化: 世帯内役割分担の実測(時間)が第二子以降の意思決定を左右。意識調査より行動データを重視。
- 政策の起点: 1990年(1.57ショック)以降の政策史の延長上で考えるのではなく、市区町村単位で実装可能な“摩擦低減”施策を積み上げる。

(2) 移住・定住情報ガーデン視察

総務省が運営する「移住・定住情報ガーデン」を視察。全国各地の市町村情報が展示・網羅されており、地方自治体の情報発信の場、移住に興味のある人の情報収集の場として活用されているようだ。

施設には年間約8000人が訪れているとのこと。視察当日も複数の人が相談窓口で話をしていた。施設では移住先での仕事や住まいの情報をPC端末で調べることができ、「移住」に興味のある人に対するきめ細やかな情報提供がされていると感じた。

本市でもこういった施設を有効に活用し、情報をもっと発信する機会を設けられるよう提言していきたいと感じた。

(3)日本将棋連盟将棋会館視察

新しく建設された将棋会館の館内を、森下卓九段ご本人の案内で視察させていただいた。建物のコンセプトや設計に込められた思い、対局環境の整備状況などについて、棋士の立場から丁寧な説明をいただき、将棋会館が「将棋文化の発信拠点」として位置付けられていることを肌で感じる事ができた。

公式戦が行われる対局室の見学やインターネット中継のためのスタジオの視察、対局のライブ配信のための設備は将棋ファンに向けたオンライン発信の重要性がますます高まっていることを再認識した。

館内に併設されている売店では、将棋駒はもちろん、関連書籍、グッズ、記念品など多様な商品が取り揃えられており、実用品から観光土産として喜ばれそうなアイテムが豊富に並んでおり、「将棋文化を身近に感じてもらう入口」としても大きな役割を果たしていると感じた。

天童市は将棋駒生産日本一の「将棋のまち」として、これまで長年にわたり日本将棋連盟と交流や連携を重ねているが、今回の新将棋会館視察では、天童市がこれまで築いてきた将棋連盟とのご縁の重み、将棋を通じて天童が全国に名前を知っていただいていることをあらためて実感した。

この「長年のつながり」は、一度築けば終わりではなく、今後も丁寧に育て、次の世代につないでいくべき大切な資産であると強く感じた。

天童市議会会派研修報告書

天童市議会議長 様

てんどう創生の会
斉藤美千代

1 日程、視察先及び視察内容

日程	研修・視察先	研修・視察内容
10月30日(木)	地方議員研究会(東京) セミナー受講	人口減少社会における出産と子ども・子育て支援政策の問題点
10月30日(木)	移住・交流情報ガーデン	移住促進がどのように行われているのか
10月31日(金)	日本将棋連盟将棋会館	移転リニューアルした会館視察

2 報告事項

(1) 地方議員研究会セミナー

甲南大学経済学部 足立泰美氏による「人口減少社会における出産と子ども・子育て支援政策の問題点と課題」を受講しました。

出産・人口減少のデータを基に実態検証できました。これまで少子化対策が行われてきたが、令和6年には「加速化プラン」として施策が強化された。課題も多く根本的な解決には至っていないと感じました。

(2) 移住・交流情報ガーデン

東京圏での移住促進はどのような形で行われているのか興味がありました。都道府県ごとにコーナー(棚)があり、市町村ごとのパンフが置かれるシステム。天童市は1部しか残っておらず、補充はどのようにするのか確認したら自治体から届いたら置いてくれるとのことと管理してくれている様子はありませんでした。その日は、富士宮市でイベント「日本酒飲み比べ会」がありましたが集客は少なく企画工夫が必要だと感じました。相談窓口があるので市としては営業が必要ではないかと感じました。

(3) 日本将棋連盟将棋会館

天然木を使ったテーブル椅子、壁など日本らしさ溢れる会館でした。普段は入れない対局室入口付近も見学しました。会館の一階には、一般の方がマッチング対局できる部屋があり、お土産品が並ぶショップ、カフェも併設されていました。将棋に興味がない方も立ち寄りたくなるような雰囲気、デザインが参考になりました。